

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(平成8年5月20日第三種郵便物認可)

2006(平成18)年3月15日 第396号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話03(3269)1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)

日本総合健診医学学会第34回大会が開催

がん検診や健診の革新と さらなる健康増進を主眼に

「Innovative
健診 to Promote
the 健康」をメインテ
ーマに、日本総合健診医
学会第34回大会と国際健
診学会(IHEPA)別
府大会(大会長 和田知
益大分総合健診センター
理事長)が、1月27日、
28日の2日間にわたって
別府市のヒトコンプラザ
で合同開催された。大会
では、わが国の死因のト
ップである「がん」、昨
年診断基準が定められた
メタボリック症候群に関
連する「血管障害」、労
働衛生の最大の課題であ
る「ストレス関連疾患」
などの話題を中心に、社
会のニーズに合った総合
健診のあり方をめぐって、
さまざま角度から
講演や発表が行われた。

今回の大会では、3つのシ
ンポジウムが組まれた。この
うち「がん検診、予防の最新
線」(座長 森正樹九州大学
病院別府先進医療センター教
授 津金昌一 国立がんセン
ターがん予防・検診研究セン
ター部長)では、わが国のP
ETがん検診の現状と展望
国家戦略としてのがん検診は
どうあるべきか、現状におい
て推奨できる日本人に適した
がん予防法、分子(バイオマ
ーカー)疫学を用いたテラ
ーメイド予防医療の取り組み
などについて、がんの疫学研
究や検診などの第一線で活躍
している4人のシンポジスト

が最新の知見を報告した。
また、「血管障害をいかに
予防するか エビデンスに基
づく診断、治療、予防」(座
長 中村正大阪大学講師 宮
崎滋東京通信病院部長)では
6人の専門家が、肥満症とメ
タボリックシンドロームの概
念、軽度耐糖能異常の早期予
防、エビデンスに基づいた日
本人向けの高脂血症治療戦
略、血管障害のメカニズム
食事指導や運動療法の実際
などについて発表を行った。

このうち、肥満症とメタボ
リックシンドロームの概念を
報告した座長の中村講師は
危険因子保有数と心血管疾患
発症のオッズ比、肥満症とメ
タボリック症候群の相互関
係、内臓脂肪の測定方法など
を紹介した。そのうえで図を
示しながら、「今後はメタボ
リックシンドロームの考え方
にたち、個々の突出する問題
は水山の一角であり、そのベ
ースに内臓脂肪の蓄積がある
ことを、受診者に明確に伝え
ることが重要である。そして
自分の病態がどの段階である
のか受診者自身に気づいても
らい、能動的に生活習慣を改
善してもらえようという保健指
導を進めることが求められる
」と強調した。

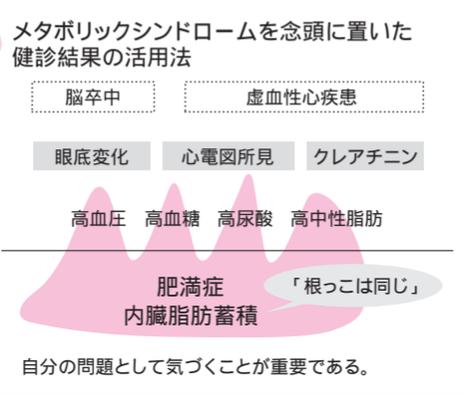
「いつばつ、近年急増してい
る過労死や自殺の問題に関わ
るストレス関連疾患予防の
ためのストレス測定と評価」
(座長 下光輝一 東京医科大学
教授 相澤好治北里大学教
授)では、職場におけるスト
レス対策の重要性と実際の取
り組み、質問票を用いたスト
レスの評価手法、ストレスサ
ーの評価とストレス関連疾患
の予防対策、簡易面接法を用
いたつ状態の評価などを4
人のシンポジストが報告し、
その後の総合討論では会場と
の活発な質疑応答が行われ
た。

大会ではこのほか、事業部
門、放射線技師・臨床検査技
師部門、保健師・看護師部門
で開催された。

研究集会には、予防医学事
業中央会傘下の全国37都府県
支部の検査技術担当者や関係
者約1500人が参加した。
今年の研究集会は、「新たな
予防医学技術の向上をめざ
して」をテーマに、健診技術
環境検査、代謝異常検査、
がん検診、小児保健、生理機能
臨床化学などの9部門52題の
研究発表が行われたほか、上
田孝典福井大学医学部附属病
院院長による特別講演「『が
ん』は「くすり」でなおるの
か?」フォーラムディスカ
ッション「健康診断 健診の
工夫」ワークショップ「各
種健康教育への取り組み」
パネルディスカッション「健
診の精度を維持しながら経費
を削減するための取り組み」
も行われた。

このうちフォーラムディス
カッション(座長 間島勝徳
神奈川県予防医学協会臨床検
査部長)では、運動によって
AST高値データが頻発した
事業所健診の経験(愛媛)
健診順序変更による止血確
効果(神奈川)、巡回健診現
場の改善活動(神奈川)、血
液スクリーニング検査での効
果的な即2次検査の試み(福
島)が報告された。

また、パネルディスカッシ
ョン(座長 山根則幸予防医
学事業中央会常任技術委員・
栃木県保健衛生事業団事業管
理部長)では、スタッフ管理
面、資材管理面、内部検査
検査外注化のメリットとテ
リットなどについて、神奈川
宮城、栃木、熊本各支部での
現状が報告され、高品質の健
診を安価に提供し、顧客満足
度を高めていくための取り組
みが討議された。



の3領域のコ
メディカルミ
ーディング
や、太田壽城
国立長寿医療
センター病院
長による「高
齢化社会の健
康診断」など
の特別講演、
日野原重明日
本総合健診医
学会名誉理事
長による「こ
れからの健診
に求められる
」に求められて



今月の主な紙面

- 1面 日本総合健診医学学会第34回大会が開催
第40回予防医学技術研究集会開く
- 2-3面(見開き)
話題 末期腎不全の予防対策
連載「森林へ行こう」第5回
連載「おこたばですが... 保健指導反省記」最終回
健康づくり・健康増進を支援するページ 対策編 最終回
- 4面 第11回健康づくり懇話会例会が開催
最新鋭の免疫測定装置を導入・本会
産業保健フォーラムIN TOKYO 2006が開催
お知らせ
人・往来

第40回 予防医学 技術研究集会開く

予防医学に関する検査・健
診の技術水準の向上と、検
査・健診技術上の研究成果を
発表、検討する第40回予防医
学技術研究集会が2月23、
24日の2日間にわたって福
井市のフェニックス・プラザ

で開催された。

研究集会には、予防医学事
業中央会傘下の全国37都府県
支部の検査技術担当者や関係
者約1500人が参加した。
今年の研究集会は、「新たな
予防医学技術の向上をめざ
して」をテーマに、健診技術
環境検査、代謝異常検査、
がん検診、小児保健、生理機能
臨床化学などの9部門52題の
研究発表が行われたほか、上
田孝典福井大学医学部附属病
院院長による特別講演「『が
ん』は「くすり」でなおるの
か?」フォーラムディスカ
ッション「健康診断 健診の
工夫」ワークショップ「各
種健康教育への取り組み」
パネルディスカッション「健
診の精度を維持しながら経費
を削減するための取り組み」
も行われた。

個人情報の取扱いについて

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう
医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会
では、現在「よぼう医学」を送付させていただいて
いる皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所
属、役職など)を送付名簿として保持しております。
これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては
は、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の
もとに運用しております。そのうえで今後も継続して
送らせていただきたいと思います。送付名簿から
削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室
(電話03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は 予約制)
電話 東京(03)3269-1141
健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2
(財)東京都予防医学協会

コンサルテーションのご案内

- 4月 5日 岡 惺治(健康管理コンサルタント)
- 12日 三輪祐一(東京都予防医学協会総合健診部長)
- 19日 岡 惺治
- 26日 三輪祐一
- 5月 3日 祝日のため休み
- 10日 岡 惺治
- 17日 三輪祐一
- 24日 岡 惺治
- 31日 第207回ヘルスケア研修会につき休み

第11回健康づくり懇話会例会が開催

より効果的な支援のための「自律的な健康管理」を講演

「自律的な健康管理」を講演



本会と本会のユーザーが、健康づくりを進めるための情報交換と相互交流を目的に運営している健康づくり懇話会の第11回例会が2月13日、都内のホテルで開催された。今回は、労働衛生コンサルタント事務所オークスの竹田透所長が「自律的な健康管理の考え方」について特別講演を行ったほか、本会の担当者より「個人情報保護法に関する取り組み」と「人間ドック室の拡充」についての報告が行われた。例会には、各事業所や健康保険組合で健康管理や健康づくりを担当している方々と、本会の成人保健事業の担当者ら約60名が参加した。

例会では、小池敏夫懇話会会長が冒頭の挨拶で、「昨年末に出された政府による医療制度改革大綱は、企業や健康保険組合、また被保険者にとっても負担増となるきびしい内容となっている。『受益者負担』が強調されているが、国民の納得できるような改革をお願いしたい」と述べた。

続いて行われた「自律的な健康管理 新しい健康の概念と労働者のサポート」と題した特別講演で竹田所長(写真)はまず、自律的な健康管理の意義を語るにあたり、産業保健活動の焦点が、労働による

健康障害、職業病予防から生活習慣病予防や健康増進へ、さらには過重労働・メンタルヘルス対策、労働安全衛生マネジメントシステムの活用、企業の自主的取り組みへと移り変わってきた経緯について説明した。

そのうえで、「このような状況の変化にもない、従来検査に欠かせないTSH、FT3、FT4といった免疫検査を自動で分析するものである。従来の装置に比べて検体の処理能力が向上し、1時間あたり240テストが可能となったことや、最大で24項目を同時に測定できるという点がこの装置の特徴である。また分析にもなつて発生する医療廃棄物や産業廃棄物を軽減できるような工夫もなされている。

このような最新鋭の機器を導入することで、従来に比べて検査時間が短縮され、今後はより効率的な検査ができるようになった。

最新鋭の免疫測定装置を導入 本会

免疫検査の充実を図る

本会ではかねてより、ウイルス性肝炎などの感染症や、甲状腺疾患に関連する検査、前立腺がんなどをスクリーニングする腫瘍マーカーを用いた検査を行ってきたが、このほど、免疫検査体制のさらなる充実のため、従来の分析機器よりも高性能の全自動化学発光酵素免疫測定装置(ルミバール Presto、富士レジオ製)を導入し、設置した。

この装置は、HBsAg、HBsAb、HCVAbといった肝炎のウイルスマーカー、梅毒感染症のマーカーであるTP、腫瘍マーカーのCEAやPSA、甲状腺疾患の

型の問題点を指摘し、改善方法を示していく)では、一定の効果はあげられたものの、専門家の指導を受け入れられない労働者や、保健行動を継続できない労働者が少なくなく、その限界が指摘されてきた」として、このような問題に対応できる新しい手法として、自律的な健康管理の考え方を強調した。

続けて竹田所長は、自律的な健康管理を「労働者が主体となつて自らの価値観や規範に基づいて健康管理を行っている」と定義し、また同時に「労働者自らが問題に気づき、目標を定め、解決法を探り、実施評価していく過程で、保健医療職はその労働者の今を問う作業を横で見守り、と

もに歩く存在としてサポートしていくもの」として、従来とは異なる保健医療職のスタンスについても言及した。さらに、具体的な自律的な健康管理の手法として、客観的医学的評価を軸に、本人の実感に基づく主観的健康感を横軸にして、この2軸によって現在の健康状態を位置づけ、今後向かっていく方向を4つのパターンに分けて示した。そして、それぞれのパターンごとに保健医療職としてのアプローチの方法を紹介した。

竹田所長は「この新しい健康概念は、健康を客観的に主観的な2軸で捉えることで、さまざまな状況を説明することが可能になる。専門家が基本的な健康概念として共有し、人の将来にわたっての健康を的確に捉えることや、労働者が自分の価値観を大切にしたい」と話している。

た保健行動を行う際の支援に活用してほしい」と述べた。このほか、協会からのご案内として、本会の成人保健部の大島利彦マネジメント二課長が、個人情報保護法の施行にもなつた「P(プライバシー)マーク取得に向けた本会の取り組み」の進捗状況について報告した。また寺門哲施設課課長が、受診者の快適性と利便性の向上と、プライベートに配慮した診察・検査スペースの確保を目的に、このほど本会が行った「人間ドック室の拡充」について、具体的な内容の紹介を行った。

フォーラムでは、大阪ガス健康開発センターの岡田邦夫統括産業医による「健康経営のすすめ」などの講演やセミナー、T・H・P体験コーナーなど、産業保健の現場で役立つさまざまな話題や情報が取り上げられた。

本会も、T・H・P体験コーナーに健康運動指導士を派遣するなど協力をを行った。

健康文化の形成をめざして「をテーマに、東京労働局、東京労働基準協会連合会、関東ブロック産業保健推進センターが主催する「産業保健フォーラム IN TOKYO 2006」が2月8日、東京・千代田区の九段会館で開催された。



「健康づくりのための健診事後支援の評価とその支援方法と成果」5月31日(水)午後2~4時 東京・永田町「星陵会館」

「星陵会館」で開かれる。「健康づくりのための健診事後支援の評価とその支援方法と成果」をテーマに、藤沢市健康医療センターの小堀悦孝診療所長と鈴木清美保健師が講演する。司会は、山内邦昭本会専務理事。

当日会場受付で、参加費2000円を支払えばどなたでも入場できます。定員先着400名

国際寄生虫予防指導者セミナーの研修員が本会で研修。日本寄生虫予防会では、国際協力事業団(JICA)から委託を受けて、アジア、アフリカ、中南米からの研修員を受け入れて、国際寄生虫予防指導者セミナーを実施している。第27回のセミナーの研修員9人が2月7日、本会を訪れ、本会の活動や施設を研修・見学したほか、寄生虫検査の実技実習を行った。

「人・往来」